

玉手山学園広報

No.56 新年号

2008年1月10日発行

総合学園広報誌

建学の精神「感恩」



感動、感謝、情熱で
人を幸せにする
自分も幸せになる

理事長 江端 源 治

謹賀新年

地球に優しく、自分も健康に
学生・生徒・園児、そして保
護者・教職員の皆様、新年明け
ましておめでとうございます。

学園にとって六十六回目の迎春
二〇〇八年が皆様にとって素晴
らしい一年になりますようお祈
り申し上げます。

さて昨夏は記録的な猛暑でし
たが、今冬はどう我々を迎えて
くれるのでしょうか。かつては我
慢で凌ぐ他なかった猛暑・酷寒
が、今では空調施設・機器の発
達により快適に過ごせるようにな
りました。しかし、その分、母
なる地球“に大きな負担をかけて
います。のみならず、空調依
存症“は“ヒト“が本来持つて

いる体温調節機能をすっかり鈍
らせてしまいました。少し目を
凝らせば身近なところに、われ
われが地球のため、そして自ら
の健康のためにできることが沢
山あります。たとえば空調の温
度設定は控えめに、エレベータ
ーはできるだけ使わず自分の足
での昇降に努めれば、適度の刺
激と負荷が私たち自身の“身体
力“を向上させてくれます。こ
んな些細なことも、大勢が普段
から意識して実施“すれば地球
保護に大きな効果をもたらしま
す。“地球人”としての自覚の
もと、責任ある行動を心がける
毎日でありたいものです。人類
の幸福な未来のために！

建学の精神「感恩」

感動、感謝と情熱、実践

私学にとって建学の精神は、
「何のために学校を創設するの
か？ どんな人間を育てるのか？」
という、その学園固有の存在意
義と独自の教育理念の原点その
ものです。わが玉手山学園の誇
れる建学の精神「感恩」は一九
四二年の学園創立以来、単なる
観念論やモットーとしてではな
く、弛みなき現代化・構造化が
図られながら、今日まで脈々と
受け継がれ学園の教育実践を支
え続けてまいりました。昨年十
一月の理事会において、この建
学の精神「感恩」の意義を次の
通り再確認いたしました。

建学の精神「感恩」

建学の精神「感恩」の原型は、
人間のおよび得ない存在に對す
る畏敬の念と生かされてある不
思議に對する感謝の思いにある。
人はみな有形無形の数々の恩恵
を享受し今日の自分がある。こ
の厳肅な事実・偉大なばかりに、
私たちは深い感動と感謝を
覚えずにはおれない。この感動
と感謝の念から湧き起こる強い
情熱をもって実践・行動すると
き、われわれは人々に幸せをも
たらし社会に貢献することがで
きる。

以上の「建学の精神」が、わ
が学園のすべての営為・教育実

践の基盤です。この「感恩」の
精神に貫かれた教育実践によつ
て、本学園で学んだ学生・生徒・
園児のすべてが社会への貢献を
通じて自己実現を目指し直向に
生きる。この建学の精神の意義
が学園教職員はもちろんのこと
学生・生徒・園児たちまで確か
に理解され、誇りを持って共有
され、教育実践に活かされ脈々
と受け継がれるとき、はじめて
わが学園の存在意義が確乎とし
て内外に認められるのです。

学園の使命、学園職員の責務 誇れる教職員魂

建学の精神と、それによって
立つ教育実践の意義が確かに自
覚され共有されるとき、「学園
の使命」と、その達成を期する
べき「学園職員の責務」はおの
ずから明らかになってきます。
学園では毎年その再確認・見直
しの作業を行っています。常
に議論することは認識と自覚を
一段と高め一層の定着を図る意
義深い手続きです。学園の崇高
な使命、および誇れる学園教職
員魂(職員の責務)は次の通り。

学園の使命

建学の精神「感恩」を体し、
人間の絆に目覚め、感動と感謝
の念から発する情熱をもって人
に幸せをもたらし、社会に貢献
し得る人材を育成し、幸福・平

和で豊かな社会の構築に寄与
る。

学園の各校園はこの崇高な使
命を全うするため、それぞれの
教育目的・理念のもと具体的な
教育目標を掲げ、その達成に総
力を結集し、「教育」に邁進す
る。

これこそわが学園が「育成を
期する人間像」であり、学園に
設置する各校園は各々の教育目
的・目標の達成のために具体的
教育活動、カリキュラムなどを
定めているのです。一つ一つの
授業科目、行事などのすべてが
教育目的・目標達成のためにあ
るのです。



大学本館へのアプローチ

◎教育人として

・ 人類の未来を拓く「知」の継承・伝達と創造・発展に努め、次代を担う有為な後継者を育成する

・ 「教育力の向上」に努め、「良質の教育サービス提供」に徹する

・ 学生、生徒、園児の持てる力を十分にひきだし最大限に伸ばし育てる

・ 学園に学ぶすべてのものに「入学してよかった、卒業してよかった」の満足感をもたらず

・ 教育人としての自覚のもと、喜びと誇りを持ってその責務・使命の遂行に情熱を燃やす

◎組織人、私学人として

・ 学園および各校園の使命、経営方針、教育目的・目標の理解・堅持に努め、その達成に貢献するように尽力する

・ 組織人であることをよく自覚し連携・協調を重んじ自己の責務・役割を全うすること
 ・ 学園教職員、私学人であることに喜びと誇りを持ち、自己の能力および人格の向上に努める

学園教職員は自らが誇りとする旺盛な“学園教職員魂”の発

露として、学生・生徒・園児の一人ひとりに溢れる愛情と情熱をもって接するものであります。もしこの教職員魂に衰えを感じ、”教育”に情熱を持てなくなつたときは、潔く教壇を去るべきであると申し上げたい。なぜならば、そのような教職員に接しられる学生・生徒・園児たちは不幸以外の何ものでもないからです。

■平成二十年度学園運営基本方針 実直に実践を

次に平成二十年度の学園運営基本方針も昨年十一月の理事会で次の通り決定いたしました。

平成二十年度 学園運営基本方針

常に魅力ある学園、社会に必要とされ、社会に貢献し得る学園を目指す

1、学園の使命、教育目的の確かな理解・共有の推進
 ・ 各校園の教育目的・目標の再確認(点検)、共有、実践

教職員はもろろん、学生・生徒・園児の一人ひとりまでが、その理解・堅持に努めます。

2、全職員の職責への自覚と「学園教職員魂」の高揚・実践

やりがい、生きがいをもっての旺盛な教職員魂の発露こそが教育活性化につながります。
 3、「教育力」の向上

・ 職員の資質・能力、人格の向上、意欲・情熱の高揚を図る
 ・ 教育に情熱のない教職員に接しられる学生は不幸である
 「师表」という言葉があります。学生・生徒・園児たちは常に教職員の一举一動に目を注ぎ、その背中をしっかりと見つめています。情熱は必ず伝わりません。情熱がなければ、せつかくの知識・技術も伝わります。

4、学生・生徒・園児の満足度向上
 ・ 「入学してよかった、卒業してよかった」の満足感につなぐ

学園教職員は、学生・生徒・園児たちの目標達成への取り組みをしっかりと支援します。彼らの満足感が我々教職員の満足感につながります。

5、こころ豊かな学風の確立、学校愛・母校愛の醸成
 ・ 建学の精神「感恩」の浸透推進
 ・ 「あいさつ」励行、マナー向上

まずは、素直な「ありがとう」と、清々しい「あいさつ」から始めましょう。

6、「学び」を支える学園環境、施設・設備等の充実

毎年、着実に整備してまいります。昨年は学園総合体育館“Do夢”が竣工しました。今年、短大5号館を大規模

に増築いたします。
 7、継承・発展と改革を支える強く健全な財政基盤の確立・堅持

良質の教育サービスを提供し、学園の使命を果たし続けるためには健全な財政基盤が要です。

以上、運営基本方針は概念的・大綱的なものでありますが、それを実直に実践・実現していくための具体的な事業計画を今、各校園で纏め上げる作業中です。

■高校生論文コンクール実施 人を幸せにする 自分も幸せになる

昨夏、大学開学十周年記念の論文コンクールが行われ多数の高校生からの応募がありました。学園建学の精神、教育理念からテーマは、人を幸せにする“でした。寄せられた論文の趣旨の多くは「人を幸せにするために(は)、自分も幸せになる(でなければならぬ)」でありました。

「幸せになりたい」と思うのは人間として極めて自然かつ当然のことですが、高校生たちが「自分が幸せになるために人を幸せにする」のではなく、人を幸せにするための自分の幸福“とはつきり位置付けていたことに心が和み、二十一世紀を担う若者たちを頼もしく心強く思いました。彼らなら幸福・平和で豊かな社会を築きあげて

いつてくれるでしょう。

■「あいさつ」の励行、マナー向上 溢れる爽やかさ

運営基本方針の五番目の項目に挙がっていますが、あまり堅苦しく考えず素直な気持ちで気軽に「あいさつ」を交しあえる学園にいたしましょう。教職員・学生・生徒・園児同士はもちろん外部からのお客様にも、待つのではない自分から“相手の顔を見て気持ちを込めて清々しい「あいさつ」をしましょう。

「あいさつ」をされる側はもちろろん、する側にも驚くほど気持ちよく爽やかな“場”になるはず。あいさつはすべてのコミュニケーションの始まり、「あいさつ」には「魔法の力がある」のです。

また学内でのマナー向上にも心がけましょう。基本は「相手を思いやる心」であり、「人を幸せにするために(は)、自分も幸せになる(でなければならぬ)」のところです。清々しいあいさつ、心優しいマナーで溢れる爽やかな学園を祈念して新年のあいさつといたします。

関西福祉科学大学

開学十周年記念行事開催

開学十周年企画委員会

関西福祉科学大学は昨年四月に開学十周年を迎え、これを記念し、様々な行事がおこなわれました。

一、開学十周年記念式典

平成十九年十月二十日、学園記念講堂において大学開学十周年の記念式典が開かれた。記念式典は式典、記念講演、イベントの三部構成でおこなわれ、約千名の参加者が「臨床福祉の実践者」を育成する大学の発展を祝った。

第一部の式典では江端源治理理事長が「学生の持てる力を十分に引き出し、最大限に伸ばし育て、彼らが入学して良かった、卒業して良かったという最高の満足感をもたらすことに喜びと誇りをもって、情熱を燃やすことが私達学園の教職員の使命です。」と教育の原点を力説。次に志水彰学長が「社会福祉は日々

変化する。理論家ではなく、実践者を社会に送りだし続けたい」と決意を表明した。続いて日本私立大学協会会長、大阪府知事、柏原市長等の来賓祝辞があった。

第二部では奈良県立万葉文化館の中西進館長が「幸福学の構想」をテーマに現代における幸福について講演をおこなった。講演では「人を幸せにする学問を学ぶ、では幸福とは何を対象にしているのか。【Be】であること、そこにいることが最終目標で、自分があることが大切にして教育は行われる。幸福学のテーマは『心』であると思う」と強調した。

第三部では開学十周年記念の



式辞を述べる江端理事長（手話サークルによる手話）

高校生論文コンクールの表彰式がおこなわれた。コンクールは「人を幸せにする」をテーマに実施され、全国の高校生から千名を超える応募があった。審査の結果、神戸龍谷高校三年の川原結衣さんが最優秀賞と決定し、表彰のあと論文「私の幸せのために」を朗読した。続いて開学十周年を記念して作成された学生歌「恵みの美空」の披露があり、作詞・作曲を担当した堂島孝平氏が登壇し、参加者とともに学生歌を合唱し式典の最後をしめくくった。

二、開学十周年記念 高校生論文コンクール

大学開学十周年を記念して広く全国の高校生から参加していた。だこうと「高校生論文コンクール」を企画いたしました。テーマは「人を幸せにする」（キヤッチコピー：私の福祉力）に決定し、高校生に「幸せ」について自由に意見を発表してもらうこととしました。

作品の募集期間が高校生が夏休みに入った七月下旬から九月二十日までと、若干スタートが遅かったのですが

遅かったのですがどれぐらの応募があるのかと一抹の不安がありましたが、大学の入試広報部の参事の方々が高校訪問で論文コンクールの宣伝をしていただいた結果、最終的に全国から総応募校数七十五校、個人応募を含め応募総数千四通もの応募を得ることができました。

一次審査、二次審査、そして十月九日の最終審査と厳正なる審査を行い、最優秀賞一点、優秀賞三点、特別賞三点、佳作十点が選ばれ



高校生論文コンクール表彰式

ました。現代の高校生たちが考えている、人を幸せにするための福祉への思いが伝わってくる素晴らしい作品ばかりでした。本学園の関西福祉科学大学高等学校から応募された二年生植野栞さんも佳作に入選されました。本学園として初めての試みでしたが、応募校の担当の先生からは、自分以外の「人」を幸せにするということについて高校

生が考える良い機会でした、今後も続けて欲しいというコメントも多数いただき、スタッフ一同本当に嬉しく思っております。そして大学開学十周年記念式典においては、イベントの一つとして「高校生論文コンクール表彰式」を実施いたしました。式典には最優秀賞、優秀賞、特別賞の受賞者の保護者や担当の先生方にも参列していただきました。

した。表彰後、最優秀賞の神戸龍谷高等学校三年川原祐衣さんの「人の幸せのために」の朗読があり、無事終わることができ来場者の方々から良かったですよとおほめの声をいただきました。論文コンクールスタッフ一同、このコンクールに関わっていただいた教職員の皆様に心からお礼申し上げます。

三、学生歌『恵みの美空』完成 開学十周年記念式典で披露

大学開学十周年を記念して作成を進めていた学生歌が完成し、昨年十月二十日に開催された開学十周年記念式典で初めて披露されました。

「学生がみんなで歌える大学の歌を作りたい」・・・その想いに二年前の大学祭イベントに出演していただいた堂島孝平さんが応えてくれました。

できるだけ学生とともに、学生の想いを反映した歌作りをしたいとする企画に賛同し、応募してくれた学生が、一昨年の十一月二十六日に京都に集い、堂島さんを囲んで初めてのミーティングを開きました。



関西福祉科学大学生による学生歌披露

「卒業して何年も経つてからでも、心に残って口ずさめるようなそんな大学の歌を創ってみたい」と語りかけてくれた堂島さんの言葉に、最初は口が重たかった学生もすっかり打ち解けて、今回の学生歌のイメージにつながるいろいろなキーワードが飛び交いました。

この日から、学生歌制作はスタートしました。早速、全学生に向けて「大学の歌」作りを呼びかけ、歌詞に組み入れたフレーズやキーワードを広く募集し、それを堂島さんに送り、歌詞の案を作ってもらいました。

その後、歌詞の案や楽曲のデモテープのやり取りを繰り返し、学生歌として作詞・作曲が完成したのは昨年の九月になってからでした。急ぎ吹奏楽用の楽譜を作成し、歌唱に参加してくれる学生の有志を募って、ようやく開学十周年記念式典でお披露目することができました。当日は作詞作曲の堂島孝平さんも応援に駆けつけてくれました。

完成した学生歌は教育後援会のご協力により、堂島さんの歌唱でCDを作成し、全在學生に配付するとともに、記念式典にお越しいただいた皆さんに十周年の記念品のひとつとしてお持ち帰りいただきました。

ちなみに空と翼をイメージさせる学生歌CDのジャケットデザインは、学友会長の西瀧彩さんによるものです。

十周年を記念して作成した学生

歌を、学生の皆さんの心に残る歌として歌い上げていただけると願っています。



恵みの美空 CDジャケット表



恵みの美空 CDジャケット裏

四、開学十周年記念セミナー・ 教育懇談会を岡山、金沢で開催

大学開学十周年を迎えるにあたり、十周年記念行事の一環として、保護者の方だけではなく、卒業生や就職先の施設・企業の方、また関西女子短期大学の同窓会の方々まで開学十周年を広報する目的で広く「記念セミナー」への参加を呼びかけました。

同時に、本学への進学を希望される方を対象に「進学相談会」を開催するとともに、特に、本学キャンパスでの企画に参加できない保護者の皆様との懇親を深める目的で「教育懇談会」を開催しました。

九月十五日(土) ホテルグランヴィア岡山で行われた岡山会場では五十一名が、また九月二十九日(土) 金沢都ホテルで行われた金沢会場では二十八名の

参加がありました。

当日は、「大学開学十周年記念セミナー・教育懇談会」として、記念セミナーでは、本学教員による講演が行われるとともに、地元で就職した卒業生からは、「地元を生かす私の福祉力」をテーマに、卒業後の職場での取り組みが報告されました。セミナーには、大学・短大の卒業生、就職先や実習先、本学に関心のある高等学校などからも広くご参加いただき、交流の輪を広げることができました。また、教育懇談会では、保護者の方々や大学・短大の同窓会の方々とも会食しながら親しく交流をはかることができました。会食後には保護者と教員との個別相談も行われました。

なお、当日のプログラムは以下のとおりです。
今後の開催についても多くの皆様に出席していただけたことを願っています。

【当日プログラム】

○記念セミナー

- ・「見えてきた疲労に陥るメカニズムと対処法」
(健康科学科 倉恒弘彦教授)
(岡山会場)
- ・「明日の社会福祉」
(社会福祉学科 杉本敏夫教授)
(金沢会場)
- ・「地元生かす私の福祉力」
地元で就職した本学卒業生による講演
(両会場)



セミナー会場風景

- 進学相談会
- 教育懇談会
- ・教育後援会活動報告
- ・保護者、大学・短大同窓会、本学教職員との交流
- ・保護者と担当教員との個別相談

五、開学十周年記念

ホームカミングデー

関西福祉科学大学開学十周年記念行事の最後を飾るホームカミングデーが、平成十九年十一月十一日(日)に開催されました。

第一部の開会式及び講演会では、開会式において、志水学長をはじめ、江端理事長、細羽同窓会会長、小林社会福祉学部長、三戸健康福祉学部長より母校にお集まりいた

だいた同窓生の皆様にご挨拶がありました。これに続き、本学健康科学科 倉恒弘彦教授により「慢性疲労の現状と対策―ホースセラピーの科学的検証―」の講演がおこなわれました。

慢性疲労に関する最新の知見とあわせ、本学で行われた研究として、馬介在療法の疲労回復に及ぼ

す効果について、健康科学科の一期生による定量的な検討を踏まえた話は、卒業生にとりましても興味深かったようです。

第二部では、学部・学科に分かれての分科会をおこない、社会福祉学部及び大学院分科会では、杉本社会福祉学科長、鎌田臨床心理学科長の挨拶、卒業生の近況報告や社会福祉士・精神保健福祉士の活動が報告されました。

健康科学科分科会では、廣澤学科長より「学科卒業生のネットワークをつくらう」という呼びかけがあり、卒業生同士のネットワーク構築について話し合われました。福祉栄養学科分科会では、卒業後の情報交換や研鑽の場として、小川学科長および各ゼミ代表者九名を発起人とする「栄養士・管理栄養士会(仮称)」を立ち上げることとなりました。

第三部は、学園本館二階食堂において立食パーティーをおこない、教職員・学生ともに久しぶりの再会を喜び合いました。篠置名誉学長の挨拶、乾原学生支援センター長の乾杯のあと、楽しい語らいのひと時はあっという間に過ぎ、岩瀬副学長の挨拶で盛会のうちに終了いたしました。

終始和やかな雰囲気の中、恩師のかかわりに瞳を潤ませる卒業生、あるいは旧友、恩師や職員と輪になり写真を撮る方々、社会の第一線で活躍している方々の自信に満ちた表情は、まさに同窓会

を中心とした、本学の明るい未来を映し出しているようでありました。なお、当日は大学祭二日目ということもあり、卒業生百六十六名、教職員五十六名、合計二百二

十二名という多数の方の参加者を得ましたことをご報告させていただきます。関係各署のご協力に感謝申し上げます。



第二部 分科会



第一部 開会式



第三部 交流会(立食パーティー)



第一部 講演会

学園 トピックス

武田 建教授から

学園全教職員に 著書寄贈

理事長 江端 源治

伝えたい、伸ばしたい

知識・技術と愛情、情熱

く育てられたように育て、

教えられたように教えるく

昨夏、本学教授「武田建氏」から著書「コーチングの心理学」（二〇〇七年七月初刊）を本学園全教職員に頂きました。その数三〇〇冊になります。玉手山学園を想う武田先生の完全なご

好意によるものであり、学園は
ありがたく頂戴し御芳志に甘えさせてもらいました。
先生への最大の御礼・恩返しは、この著書をしつかりと読み気付いたことを実際の教育現場・職場で実践し、学園教職員自身の自己向上に役立てると同時に

何より、一人でも多くの学生・生徒・園児の意欲（やる気）を起こし伸ばしていくことであると思っております。

著書はアメリカカンファットポール（著者がよなく愛し、コーチ・監督として前任校のチームを幾度も日本一に導いたの情熱あふれる直向な指導を舞台として、監督・コーチはもちろん先生と生徒、上司と部下、親子といった関係における、心に響き伝わり、やる気を起こさせる指導（人間関係の改善）のあり方について、ご専門である心理学を積極的に活かして書かれています。選手たちにどうしたら知識・技術はもちろん、思いが伝わり、やる気が起こるのか？選手たちへの愛情と彼らを伸ばしたいという情熱、そして永年の研究、実践、経験による確かな理論・方法論が事例をもとに分かりやすく記述され多くの示唆に富んでいます。もう読まれたと思います。またの方はぜひ読んでください。また幾度も読み返してください。

どんなベテラン教職員もはつと気付かされ反省させられ、ときに自分が恥ずかしくなるほどの思いにかられることもあるでしょうが、と同時に「よし、頑張ろう！」という意欲が湧いてくる本です。何度も読み返し多くの教職員、学生・生徒・園児たちに次々と継承されていくこ

とを願います。著書の中に記載されています。

「人間というものは、育てられたように育て、教えられたように教えるものである」と。まったく同感であります。

教育人たる

われわれ教職員は、なんと責任の重い、やりがいのある仕事をしているのでしよう。

肝に銘じたい、「学生・生徒・園児たちはわれわれ学園教職員の背中を



武田教授の著書

見て育っていく」のです。学園の全教職員を代表して武田先生にあらためて厚く御礼申し上げます。

春の里苑 完成植樹式

大学事務局 政策室

井野 真由美

去る平成十九年十月十三日、JR福知山線脱線事故（平成十七年四月二十五日発生）で亡くなられた井上美里さん・折尾春菜さんを追悼して造成された、「春の里苑」の完成植樹式が挙行されました。

植樹式にはお二人のご両親をはじめ、学友会、学園関係者が参列し、冒頭にお二人へ黙祷が捧げられた後、シダレザクラの植樹が行われました。
江端理事長は式の挨拶の中で、学生には「しっかりと生きぬいて人々に幸せをもたらしたり、この場所に学生たちが集まって憩

い、大いに語り合って欲しい」と所感を述べられました。また、折尾春菜さんのお父様は「この『春の里』が皆さんの憩いの場所、くつろぎの場所として身近なものになって欲しい」、井上美里さんのお父様は「学生さんの賑やかな声も二人に届くと思う」と、春の里苑に対する感想を述べられました。

学生を代表して挨拶した山内学友会副会長は、「思い出だけでなく、二人の夢、志を心に留め、私は二人のことを決して忘れません」とお二人に対する想いを語り、参列者一同、お二人を哀悼するとともに、完成した春の里苑が学生にとって有意義な場所になるよう期待を寄せました。



クラヤフジ、スイセンなどの花々が植樹されており、春には苑の名称どおり学園・大学の「春の里」となります。お二人のことを偲びながら、皆さんの憩いの場所として活用して頂きたいと思えます。

「関西福祉科学大学と佛教大学との 小学校教員免許状履修課程に 関する協定書締結について」

大学事務局 教 務 部

この度、小学校教諭免許取得を希望する学生のニーズに応え

るため、平成十九年十一月六日（火）に関西福祉科学大学と佛

教大学との間で小学校教諭免許に関する協定書を交わしました。本学で取得可能な教諭免許は現在のところ、中学校教諭一種免許状「社会」、高等学校教諭一種免許状「公民」、「福祉」をはじめ、中学校教諭一種免許状「保健」、高等学校教諭一種免許状「保健」、養護教諭一種免許状、栄養教諭一種免許状があります。

今回の協定書を交わしたことにより、平成二十年度以降の社会福祉学科、臨床心理学科、健康科学科の入学生で所定の条件を満たした学生は、佛教大学通信教育課程を利用することにより在学期間中（二年次から三年間）に小学校教諭一種免許状の取得が可能となりました。

ただ小学校教諭一種免許状取得が可能となったとはいえ、本学学生の誰しもが取得可能となるわけではありません。教員採用試験に合格し、免許取得後に小学校教諭として活躍しようとする強い意欲と決意、免許取得・採用試験合格のための学習をやり遂げる忍耐力や将来に向けての展望などをしっかりともった学生が対象となっています。

小学校教諭免許取得のために、本学の卒業要件と中学校教諭一種免許状「社会」もしくは中学校教諭一種免許状「保健」の取得を満たした上で、佛教大学通信教育課程で小学校免許取

得に必要な科目も修得しなければならぬほか、四年間で卒業単位を取得することができるよう一年次生からいくつかの条件を満たすことが必要となっていますので、十分な履修計画を立てることが重要となっています。

教育改革が進み、採用枠が拡大してきている小学校では今、「質」の高い教員が強く求められています。単に免許を取得するだけでなく、小学校教員にふさわしい知識や技能・資質を身につけた意欲に満ちた学生が育っていく



第五回 関西福祉科学大学 公開講座を終えて

生涯学習委員会委員長
倉 恒 弘 彦

関西福祉科学大学では、平成十九年十月・十一月「ストレス社会を生きるには」と題した公開講座を実施しました。

今年度は健康福祉学部健康科学科の担当で、第一講は三戸学部長が「産業社会とストレス」と

題して、産業構造変化に伴ったストレスの上昇や対処法について説明され、第二講では廣澤学長が「男女共同参画社会におけるストレス」と題して、異なった男女が平等に働き、共同参画社会を構築するには何が必要

かについて説明されました。

第三講では、大野教授が「小
手先でできるストレス対処法」
と題して、身近な道具や考え方
でストレスに対処する方法を伝
授され、第四講では、長見准教
授が「健康とストレスマネージ
メント」(COP)の「リラククス」と
題して呼吸法、筋弛緩法、アロ
マなどのリラククス法を紹介さ
れ、参加者全員で実際にリラッ
クス法を体験致しました。また、
その後私が「馬介在療法の科
学的検証」と題して、本学の共
同研究としてこれまで行われて
きた内容や、その結果明らかに
なってきた馬との触れ合
いによる癒し効果に
ついてご説明致しま
した。

今回も一〇代から
七〇代まで幅広い層
の多くの市民の方々
のご参加を頂き、大
変感謝致しております。
頂きました声を少し
ご紹介致しますと、「参
加者にとつて身近に
感じられる雰囲気で
した」、「今日のスト
レス社会における家
庭の重要性がよくわ
かりました」、「大変
勉強になりました」。
明日からは自分が
変身できるような気
がします」、「馬で人

が癒されるのはすごいと思いま
した」など、現代社会のストレ
スを理解して対処するのに大変
役立ったとの声を多くの方から
頂いております。

公開講座は、平成十五年より
毎年春に関西女子短期大学、秋
に関西福祉科学大学が担当致し
ておりまして、来年六月には第
二十一回関西女子短期大学公開
講座を「今どきの子育てと子育
て」をテーマに開催する予定で
す。

どなたでも参加可能で、参加
費用も無料ですので、是非多く
の皆様のご参加を頂きますよう
よろしくお願い申し上げます。



学 園 正 門

平成十九年度 短期大学海外語学研修

研修団長 森川英子

平成十三年度より中断されて

いた短期大学海外語学研修が本
年度六年ぶりに再開されました。
期間は八月二十八日〜九月十日
の十四日間で、研修先はオース
トラリアのクイーンズランド州
内にあるサンシャインコースト
大学（USC）です。参加学生
は三十名で、滞在期間中は全て
ホームステイにて行われました。

研修の目的は三点、①異文化
を体験することにより、視野を
広げ見識を深める事 ②日頃研
鑽している勉学の内容理解につ
いて、異国の事情を通してより
深化させる事 ③語学に対する
関心喚起です。

①の異文化体験に関しては、
ホームステイが最も効果的であ
ったかと思えます。実生活を二
週間行うことは、身近であるが
ゆえに強烈なインパクトが残り
ますし、ホストファミリーとの
コミュニケーションを通じて参
加学生は多様な価値観に触れる
ことができたものと確信しまし
た。中には、事情のある子供た
ち七人を受け入れているホスト

ファミリーもあり、そこでお世
話になった学生には、養護教諭
を志していることもあり、大い
に啓発されたところがあつたよ
うです。

②については、幼稚園・歯科
医院の見学を通し、様々得るも
のがありました。例えば歯科医
院では小児歯科に重点を置いた
話を聞くことができ、歯科衛生

学科の学生に限らず、
保育科、保健科の学
生にとつても大変参
考になったようです。
国によって大きな考
えの違いがありました。

③語学についても
予想以上の効果があ
りました。英語が机
上のものでなくコ
ミュニケーションツ
ールであることを実
感でき、通じた時の
喜びを体験できたこ
とが大きいようです。
事前にもっと勉強を
してから行けばよか
ったという声もよく

聞きました。

また、思いのほか学生は英語
だけの授業に馴れていきました。
幸い滞在中に事故もなく、体
調を大きく崩す学生も現れな
かったのですが、中にはホームス
テイ先の生活になかなか馴染め
ず思い悩む学生もいました。し
かし、途中で挫折することなく、
なんとか順応しようとする努力
がみとれ、時が経つにつれて
逞しくなっていく過程を目の当
りにしました。

日常では得られないこの体験
は、彼女達にとつて大きな財産
になるものと確信できたことは、
付添教職としてこの上ない喜び
でもありました。



海外学生交流会

バドミントン部

近畿大会、全国大会に出場

高校 高橋 賢悟

一、第五十四回近畿高等学校バドミントン選手権大会

十一月十六日(金)から十八日(日)の三日間で、滋賀県立体育館にて開催された近畿大会へ出場しました。

出場したのは、二年六組の西山麻子と福留麻代の女子ダブルスで、夏に行われた近畿大会大阪府予選に勝ち抜いてきました。大阪府の女子には全国上位高が三校あり、ここで勝ちあがってきたことが、今後の自信にもつながると思います。二人ともに中学校時代からバドミントンを始めましたが、大阪府大会より大きな試合に出るのは初めてで会場入りから緊張していました。

試合が始まって一回戦、和歌山代表のペアと対戦して競り合いながらも勝ちました。試合前から必ず勝ると信じて、何の戦略も与えずに自分たちで勝つ方法を探りましたが、腕は縮み脚も動きが悪いという緊張のプレッシャーに押し潰されてしまいました。そのため次の二回戦ま

ではほとんど休憩をせずに、いつもの練習通り一時間たっぷり汗をかいてから試合へ向かわせました。

二回戦の対戦相手は、第六シードの滋賀県第一代表の強豪でした。始まるなり相手の技術力の高さから守るだけで精一杯になりました。

夏からレシーブ練習に時間を割いて取り組んできたとは言え、守っているばかりでは勝てるはずもなく、ほとんど得点できずに一ゲーム目は敗れました。エンドをチェンジする時に二人のところへ行き、高校へ入学してからたくさんの練習を積み重ねてきた思いと、自分たちの持っている能力を信じるようにアドバイスして二ゲーム目に入らせました。二ゲーム目が始ま

ると、最初から長いラリーが多くなってお互いが我慢しあう試合になりました。ともに連続でポイントが得られず、一進一退の状態。十一対十でリードしたところまで来ました。ここから後半も戦えると思った矢先に、簡単なエラーで三点という連続失点をしてしまいました。それでもラケットをしつかり振り、脚もよく動かして長いラリーに集中力を持続させて頑張りましたが、残念ながら最後は力の差を見せられて負けました。試合後は悔しさのあまり二人とも涙が出そうになっていました。今ままで最高の試合が出来たという自信を得た笑顔を見

せてくれました。監督として引率した私自身も同じ気持ちで、悔しさの中に充実感がありました。今大会を通じて、何かに対してひたむきに挑戦することやぶつかっていくことよって大きなものを得られる実感がわいたことは、今後の大会や高校生活の中で必ず生かされると信じます。クラブ員たちのこれからの大きく期待しつつ、大会に先立って応援やご支援を頂いた先生方に感謝したいと思います。ありがとうございます。

二、第六回日本バドミントンジュニアグランプリ二〇〇七

十月十二日(金)から十四日(日)に宮城県仙台市で開催された大会へ、一年四組の山本晃司が大阪府選抜チームに選ばれて出場しました。この大会は都道府県対抗の団体戦で、予選リーグではシングルスとダブルスに一試合ずつ出場し、チームは二連勝で決勝トーナメントへ進みました。決勝トーナメントの一回戦で準優勝した北北海道選抜に敗れましたが、全国という大きな舞台で自分の力を出し切れたことにこれからの成長を見出してもらいたいと思います。



近畿大会出場の選手

障がい者の方々に ご協力をいただいての 体験学習

理学療法学科

森 耕平

専門学校理学療法学科は、開学以来、様々な取り組みを行ってきております。その目標とするところは、病院などの臨床現場での確実な判断を行い、行動できるといふ理学療法士を育成することです。

理学療法士の仕事にマニユアルはありません。患者様一人ひとりの心身状態のみならず、生活の状況や環境までも把握し、到達するべき目標を設定します。そして、患者様の課題を解決し、少しでも希望に込えられる

よう全力で取り組みます。私たち教員は、そんな自己解決能力のある理学療法士を養成したいと考えております。

本学科では、その一環として、障がい者の方々にご協力いただき、学生が机上で学んだ個々の知識・技術を確認し、実施させていた

ただ機会をもっていきます。学生にとっては、頭の中だけでの学習ではなく、実際に見て、触れて、感じる

ことのできる貴重な体験となっております。過去にこの授業を経験した学生からは、



体験学習の様子

においてあるいは理学療法士になり一人で現場に立ったとき、おおいに役立ったとの声が多く寄せられています。

さまの更なるスキルアップを指してきました。それら卒業教育の一環として、本年度より本校主催による学術大会を開催することとなりました。

学術大会の内容は、

① 演題発表

すでに保健・医療・福祉の各分野・各職種で活躍されている卒業生（診療情報管理士、介護福祉士、理学療法士、作業療法士など）が現在取り組んでいる研究に関する発表や、より良い医療を提供しようと病院・施設で取り組んでいる活動に関する報告などが行われ、他職種間の貴重な学術的交流の場となるものと考えております。

② 教育講演

武田建先生（関西福祉科学大学教授）より、『コーチングの心理学』と題して講演いただきます。武田先生は関西学院大学教授、学長、理事長を歴任され、同時に関西学院大学アメリカンフットボール部の監督として五連覇を含め全国優勝七回、関西高等部監督として全国優勝六回という輝かしい成績を収められております。

こうした数々の経験をもとに、どうすればやる気を起こさせることができるのか？ どうすればよりよい人間関係を築くことができるのか？ などの疑問に対し

て、心理学を基にしたコーチングの理論と方法をお話いただきます。医療人とし、上司として、教育者として、親として、様々な立場に共通する、教え方のヒント、人間関係改善へのヒントが得られるのではないでしょう



短大2号館前

本校で初めての試みである学術大会に興味のある方は是非ご参加下さい。

開催日

平成二十年二月二十四日(日)

一〇:〇〇～一五:一五

参加費

一〇〇〇円(昼食費)

会場

玉手山学園

学園二号館 大講義室

第一回 関西医療技術専門学校 学術大会開催の お知らせ

理学療法学科

森

耕平

関西医療技術専門学校では、在学中の教育だけでなく卒業生

を対象とした勉強会や技術講習会を毎年開催し、卒業生のみな

大西英子 教諭(幼稚園) 知事表彰受賞

幼稚園長

川人公一

この度、幼稚園の大西英子教諭が平成十九年度教育文化週間

知事表彰における私学教育功勞者として大阪府知事より表彰さ

れました。

表彰理由は長年に亘り幼稚園の教員の研修及び指導にあたり教員の資質向上に努め成果をあげたこと、また園児の指導にも優れた能力を発揮し、園の発展に貢献したことが評価されたものです。

このことは大西先生ご本人の榮譽のみならず本学園としましても慶事とするところで、大西先生は昭和五十年に幼稚園教諭となり、常に情熱をもって幼児教育に専念されており、昭和五十八年からは主任として園長を補佐し、幼稚園の教育研究、管理、園の運営に大きく

貢献されています。

大西先生の益々のご活躍をお祈り致します。



玉手山学園 柔道クラブ発足

法人本部施設部

仲谷博英

この度、柔道の指導を通じて心身ともに健全な青少年を育成することおよび地域社会への貢献を目的として「玉手山学園柔道クラブ」が発足しました。

クラブへの入会資格は学園に在籍する学生・生徒・園児ですが、近隣の小・中学生も入会可としています。
クラブの指導者は藤井光丸師

範（講道館柔道七段・元専門学
校長）で十月五日にはクラブ会
員募集のためデモンストラーシ
ョンを行いました。

その結果、十一月十四日現在
でクラブ会員数は大学生二名
（二名とも初段）、

専門学校生七名（内
二名が初段）、幼
園児五名の合計十四
名となっております。

活動場所は学園総
合体育館二階の武道
場で、練習は園児は
水曜日の一四二〇～
一五二〇に、その他
は金、土曜日の一八
〇〇～二〇〇〇に行
っており、将来は対
外試合にも参加する
予定です。

柔道歴六十一年の藤
井師範の情熱のこも
った厳しくも温かい

指導で武道場は熱気にあふれて
います。
学生の皆さんの入会をお待ち
しています。



柔道クラブ練習風景

文科省、 大阪府、柏原市の 調査・研究に協力

幼稚園

大西英子

昨今問われております、子ども

もの体力低下とその背景には

① 外遊びやスポーツの重要性
を軽視

② 日常的に体を動かす機会
の減少

③ 偏った食事などの生活習慣
の乱れにより、

【①】生活習慣病の低年齢化

【②】転んでも手がつけられず、
顔をケガする

【③】ボールをよけられず、顔
面にあたってしまう

などの現象例が報告されてお
ります。極めて危機的現状を懸
念してやみません。

幼児期は生涯にわたり、運動
やスポーツに親しみ、健康的な
生活を送るための基礎を培う重
要な時期です。いろいろな遊び
を通して、体を十分に動かし、
いろいろな動きを経験し、運動
の仕方を知り、健康的な生活の
リズムを身に付けることが、人
生で一番大切な時期です。

昭和の古きよき時代は、ガキ
大将の元、缶蹴り遊びや、陣取
りゲーム、かくれんぼ、鬼ごっ
こなど、日の暮れるのも忘れて
遊んだものです。朝日と共に目
覚め、夜更かしなど考えずとも
身体が睡眠を欲しました。

今のこの時代、安易に何でも
手に入りますが、心と体の健康
は一番得ることが難しいものと
なってきたようで、不安で
なりません。

この度、幼児期の運動・生活
習慣向上を目指した取り組みの

一環として、文部科学省及び、大阪府教育委員会、柏原市教育委員会の依頼を受け、「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」の実践校（園）に選ばれました。

北海道から沖縄までの四十二校（園）の内の一校（園）として選ばれましたことの、責任と誇りを感じ、この依頼をお受けさせて頂くことに致しました。

保護者の皆様のご理解とご協力のもと、幼稚園を上げ、調査、研究に望みたいと思います。

この調査、研究の中、大阪教育大学・三村教授、関西女子短期大学・高木教授の指導の下、大阪教育大学院生他研究員の

方々により、いろいろな遊びや運動を経験させて頂きながら、多くの指導を受けることで、何よりも、子ども達の体力向上と教師の実践教育となることを願ってやみません。



短大5号館 増築計画について

法人本部施設部

中村 勇

大学の教育施設充実を目的として短大5号館の増築を計画しています。

計画は短大5号館の南側に四階建て、延べ床面積約一〇〇〇㎡の校舎を増築する予定です。現在の短大5号館は延べ床面

積が約二〇〇〇㎡ですので増築後は一・五倍のボリュームとなります。

一階は通路とし、二〜四階の設備については調理実習室、音楽室等、現在詳細をつめていくところです。

